

=洋書紹介=

幼稚園とは 何のためにあるのだろうか

アンネ・ホポック

筆者、アンネ・ホポック氏は、アメリカ合衆国ニュージャージー州教育省の初等教育の副指導主事である。

に述べている八頁にわたるパンフレットである。

ここに、各章をおつて紹介してみよう。

一八四〇年にフレーベルは、

「幼稚園とは、子どもたちの性質に適した活動をさせ、体を強くし、感覚を働かせ、めざめようとしている心をゆりうごころうか」という大きなテーマのもとに、一、幼稚園児は何を必要としているのか。

二、幼児は幼稚園で何をするのか。

三、そこで何を学ぶのか。

四、幼稚園年齢に達している、かしこい子は幼稚園にいく必要があるだろうか。

五、今までの幼稚園。

六、もつと幼稚園が必要である。

などの各章に分けて、「幼稚園とは?」ということを、わかりやすく、きめこまか

現在の幼稚園は、新入園児に「その子どもたちに合った」プログラムを与えるようとしています。子どもたちの経験と科学的学習は、常に知識をふやしています。フレー

ベルの時代以上に、子どもたちが必要としているものをそなえたプログラムを、幼稚園で与えることができます。

ます。

そこで、幼稚園という、今までとは全くちがつた世界に入つてくる子どもたちは、その子どもたちの興味をひく教材がたくさんある家庭のような保育室が必要です。

一、幼稚園児は何を必要としているのか

①しんせつな先生と家庭のような保育室

新入園児は、何の不安も感じていない家庭からきます。幼稚園にきてはじめて、一人で自分のことをやらなければなりません。

お母さんは、この大きな見知らぬ場所にはいないのです。おとなにとって、子どもが、はじめてこんな幼稚園に行くときの恐怖などは、想像しがたいものです。

先生やお母さんは、この大きな園舎の外でどつちにいってよいかもよっている子がいることや、先生の名前を忘れてこまつている子がいることや、スクールバスに乗つて家に帰れない子がいることや、トイレを見つけられない子がいることを話してくれ

②自分の世界で探究し、理解する機会

幼稚園にいくような年齢の子を知つている人はだれでも、その子どもたちが非常に

たくさんの質問をすることが知つています。そしてあらゆるものに口ばしを入れた

がり、さわりたがります。いつもおとなが

なことにぶつかったとき、それをうまく処理できるように助け、注意し、やさしく導いてくれる先生が必要です。

子どもが、自分自身について、友だちについて、そして、幼稚園にくるということについてどのように感じるかは、保育室の環境と先生が子どもたちをどうあつかうか、ということにかかっています。

☆幼稚園教育のめざすものは、幼稚園といいう新しい世界で、子どもが満たされたい気持ちになるように助けてあげることです。よい幼稚園では、子どもたち

は、そこにいたがるもののです。

この年頃では、まず、具体的で、直接的な方法で学びはじめるのがよいでしょう。

幼稚園の中や、お庭、近所を歩きまわったり、まわりの人たち、ベットや保育室にもちこまれたおもしろいものに興味を示したり、植物が育つのを経験したり、パーテ

イなのに簡単な食事しかできないわけをみつけたりして、好奇心を満たしていきます。

この過程で、子どもたちは、新しい考えを持ち、その考えに幅と深味を加え、新しい関係を見出し、それを表現する言葉数を

ふやしていきます。そして、先生や友だちと話し合ったり、意見を述べるために創造力を働かせているうちに、これらの意味がわかつてきます。

積み木遊びをしたり、道具で何かつくつたり、絵をかいたり、劇遊びをしたり、うたをうたつたり、リトミックのいろいろな型をつくつたり、お話を聞いたり、先生に話してもらつたお話をくりかえしていくうちに、体験の意味がわかつてくるのです。

☆幼稚園教育のめざすところは、子どもが、自分の世界で、知的に理解し、生활していくことを学ぶのを助けることです。よい幼稚園では、子どもたち

が、その子どもたちのレベルで考えたり、簡単な問題を解いたり、ためたり、知識を得たり、自分のまわりの世界で感じたり、理解したものを、創意くふうして述べたりできます。

③できるかぎりの自由と身体活動

幼児は、家にいるとき、非常に自由です。食事をしているあいだ、おふろに入っているあいだ、そして寝ている間をのぞいては、たいていその子のおもうままでです。子どもはエネルギーの発動機です。その特

性を示す「とくえたえず」「きまわり」、しゃべりまくります。子どものこの活動的な力は、子どもが成長しているということを証明する自然な行動です。もちろん、それに対応して、子どもはぐんぐん大きくなり、体をうまくつかうことを学んでいきます。

でも、幼稚園では、子どもはおちついてませんので、印刷物のような小さなものに焦点をうまくあわせたり、手でかくというような高等な技術のために手をつかうなど

も、うたをうたいたくても、それをおさえなければならぬときがあります。ときには、話すことすらできないなんて、階段は走ってはダメ、長いつるつのホールですべってはダメ、いすを頭の上にのせてはダメ、なのです。他の子が外にいるときだけ外にいていいのだし、先生が「お部屋に入りなさい」といえば入らなければなりません。そんなに多くの自由をあきらめることは、つらいことです。幼稚園で

は、子どもたちは、集団生活の許す限り、自由に活動的にすればいいのです。

「力強さ」と「手ぎわよさ」を増すために非常に筋肉活動が必要です。子どもの目は、十分に成長していません。指先や目の

せん細な筋肉は、子どものおもうにまかせませんので、印刷物のような小さなものに

学ばなければなりません。さけびたくて

☆幼稚園教育のめざすものは、場所と自由と必要な設備を与えて、たくましく成長することを助けることです。よい幼稚園では、子どもたちは活動的に学ぶことができ、一日大半をじっとすわつたままいなくともいいのです。

幼稚園では、子どもたちは活動的に学ぶことができ、一日大半をじっとすわつたままいなくともいいのです。

④保護

この年頃の子どもたちは、すぐつかれます。ですから、子どもたちには、活動しただけの休息が必要です。（—毛布やベッドでのうつむいての休息）

子どもには、活発な活動と静かな行動をおりませたバランスのとれたスケジュールが必要です。

ミルクかジュースのついた適当な昼食、日光に、新鮮な空気も必要です。

そして、子どもは、自分自身や友だちの安全を守れる行動——家と幼稚園を安全に往復すること、仕事台で道具をいかにあつ

かうか、運動具を勇敢に、でも無鉄砲なことをしないで使うこと——を学ばなければなりません。健康に適する理由を学ばなければなりません。

☆幼稚園教育のめざすものは、子どもを

健康や安全に対する危険から守つてあげることです。よい幼稚園では、休息と運動と栄養に富んだ食物と、安全な行動がかね備わっている必要があります。

⑤友だちといっしょに生活していくことを学ぶための援助

ほとんどの新入園児は、ほんのわずかの

子どもと仲よくなるだけです。ここにくるまでに乳児期の依存からのがれようとけんめいになりました。「ぼくはどんな人間なんかしら、ぼくの力はどんなものなかしがつていてる積み木がすごくほしくなるときもあるでしょう。水がのみたくてたまらないう水たまりの中の大きなカエルでした。

おそらく、自己中心的で、自分のものに対する油断なくいかいしているようですが、たびたびいやなことがあると、おだやかな仲裁よりも、あばれたり、大声をはりあげたりして、解決してきました。

その子のクラスには二十〜二十五人の友

だちがいますが、そのほとんどは知らない子どもです。彼はその幼稚園にいる何百人の子どものうちのたった一人なのです。

自分の先生さえよく知らないですから、もちろん園長先生も、他の先生も、看護婦さんも、給食のおばさんたちも、用務員さんも、バスの運転手もみんな知らないのです。

彼は、先生のみでいるところで、部屋の中にあるすべてのものを他の子といっしょにつかわなければなりません。他の子がつかつていてる積み木がすごくほしくなるときもあるでしょう。水がのみたくてたまらないのに、水のみ場の前には、十人も他の子

どもが並んでいるところもあるでしょう。これらの事態をうまく切りぬけていくことはやさしいことではありません。そのため彼は、しりぞいたり、あらそつたり、また自分の大事なものを友だちにゆづつたりして、協力したり、分かちあうことを学ばなければなりません。

その日の活動で、小さなグループに、時には全体のグループに加わることによって、その子は、そういうことを学べるのです。
☆幼稚園教育のめざすものは、子どもが、グループの中で、いじこちよく力を發揮できる場所をみつけるのを助け、あげることです。よい幼稚園では、子どもたちは、信頼できる五歳の友だちの中で適切な方法で行動することを学ぶことができます。

⑥年齢相応にふるまうこと 成長するということは、子どもの主な仕

事なのです。幼稚園の子どもの中で、おとなにつきまとわれなくても、いつも自分のことは自分でするのが好きだという子には、独立心を育てることは比較的たやすい

ことです。ただ必要なことは、ボタンをつけてあげたり、ゴムの上ぐつをはかせてあげたり、フルーツジュースをついであげたり、絵の具をふきとつてあげたり、ベッドを用意してあげたり、粘土のテーブルをきれいにしてあげたり、いいあいをうまくおさめたりすることです。

そういう子は、計画をおしすすめることもまた、できます。

——うさぎ小屋をたてるとき手伝って下さったトンプソンさんにありがとうてお礼をいって、どうすればいいのかな？

彼は計画をはじめることがあります。

——おりてくるとき、その飛行機に指示をおくるために、ぼくたちの飛行場に信

号塔をおこう。

彼は役に立つこともできます。

——ぼくは、あした幼稚園にぼくのおもちゃのトラクターをもつていて、どんなにしてお百姓さんがそれをつかうかな？

おしえてあげよう。

☆幼稚園教育のめざすものは、子どもたちに、自分のことは自分ですることや、一日のきまつた仕事をすることや、いうことや計画や活動を率先してやる

ように教えることです。よい幼稚園では、子どもの一人一人が、これら線にそって育っていくのです。

彼は評価することができます。
——うかばせようと作ったボートをどうためしてみたらいいのかな？

彼は自分でることができます。

——ナナがぼくを動物園につれていく

れた時、ぼくが見たあの動物たちの絵

二、幼稚園で子どもたちは何をするのでしようか

ちょうど幼稚園にかよいはじめた小さなユラムが、その子どもたちの必要とするもののかねそなえていなければならないことに気がつきます。——それは、幼稚園とう新しい世界での幸せな、満たされた気持、自分たちの世界をさぐったり、理解するための積極的な精神をつかう機会、創造するためにつかうもの、友だちと仲よく生活するための指導、自由と肉体運動、健康の保護と増進といったことです。

このようなものをかねそなえた幼稚園のカリキュラムとは、一体どんなものなのでしょうか。

もちろん、やることは毎日ちがっているでしょうし、そつくり同じという幼稚園はありますまい。しかし、一般的にいって、子どもたちは、幼稚園にかよう日に、次のような経験をします。

①仕事の時間

絵をかいたり、粘土あそびをしたり、仕事台で何かしたり、積み木あそびをしたり、

遊戯室で劇あそびをしたり、科学センター

で実験をしたり、楽しく本をよんだり、自分で選んだこのような活動を、一人である

いは友だちといっしょにしたりします。

②相談する時間

幼稚園にもちこまれた興味あるものを友だちと分かちあい、いろいろなことをこうふんしてしゃべり、いっしょに遊ぼうとする子どもたちと計画をたてるのに知恵をしほったり、グループで何かやろうとしている問題を話し合ったりするのです。

③物語りの時間

ゆつたりと床の上に足をくんですわり、でしようし、そつくり同じという幼稚園は先生が読んだり、はなしてくれたりする物

語りにすっかり夢中になっています。おも

しろい物語りや親しみやすい詩の一節のいまわしをまねたり、話の一部を脚色したり、言葉をえていいなおしたりします。

④音楽の時間

⑤戸外あそび

その日の天候にあつた服を着て、子どもは戸外で、のびのびとすごします。

⑥休息の時間

⑦自分の世界を探求する時間

科学とか社会科といった学科はありませんが、遠足とか、保育室に持ちこまれたもの、物語り、絵やその他の活動の経験をとおしてまた、家庭と幼稚園のまわりの自然的、物理的、社会的世界についての多くの学ぶべきものを得、使っていくのです。

その間に知識や意味をとらえ、関係を見いだし、言葉で考えを述べる能力を発達させます。